

県東部

舟橋村のサッカークラブ「JOGANJー富山」と石川県七尾市のクラブ「セブン能登」の交流試合が7日、同村の高平メモリアル常願寺スポーツパークで行われた。元日の能登半島地震で練習拠点が被

災したセブン能登の活動を支援しようと、JOGANJー富山側が招待した。能登の選手や指導者からはプレーできる喜びや感謝の言葉が聞かれ、両チームは交流継続を確認した。(榎高浩)

被災地選手とサッカー

舟橋 JOGANJー富山 七尾のクラブ招き試合

舟橋 JOGANJー富山

セブン能登は能登を練習拠点とし、近年は金沢市にもトレーニング場所を広げている。選手の大半が能登在住の3年生は七尾中心に、中学1、2年生は主に金沢で練習している。震災で能登島グラウン

ドや和倉温泉運動公園のグラウンド計5面が使えず、各地を転々として活動している。JOGANJー富山はこれまで、七尾市で開かれた大会を通じてセブン能登と接点があり今回、「復興支援」と銘打

って交流試合を企画した。この日は新1年生主体のU-13(13歳以下)同士で25分間の5試合を人工芝グラウンドで実施し、選手がプレーを通じて交流した。試合前のセレモニーで、JOGANJー富山の井上駿主将「舟橋中3年」が励ましの言葉を述



セレモニーでJOGANJー富山の選手(緑)からコメを贈られるセブン能登の選手たち(白)

べた。村と村スポーツ協会が村産米を使ったますずしと村産米5キを能登側の27人に贈った。セブン能登の干場拓夢さん「七尾中1年」は「招待試合が楽しかった。久々にいいグラウンドでプレーできた」。新出誠監督・統括は「子どもにはいろんな人のおかげでプレーできるという自覚が芽生えている。こういった機会をいただき感謝したい」と語った。



全力でプレーする両チームの選手たち